

## 会 議 録

会議名	令和7年度 第5回小山地区まちづくり会議			
事務局 (担当課)	中央区役所中央6地区まちづくりセンター 電話042-707-7049 (直通)			
開催日時	令和8年2月17日(火) 19時00分～20時30分			
開催場所	小山公民館 大会議室			
出席者	委員	17人(別紙のとおり)		
	その他	1人(放課後児童対策課1人)		
	事務局等	2人(中央6地区まちづくりセンター総括主幹ほか1人)		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 情報提供 (1) 市立児童クラブの課題や今後の取組について (担当：こども施設課)</p> <p>4 報告事項 (1) 来年度のまちづくり会議開催日程(案)について</p> <p>5 議 題 (1) まちづくり会議会則の一部改正について (2) 災害時要援護者の取組における具体的な支援案の検討について</p> <p>6 その他 (1) 来年度のまちづくり会議委員の推薦について</p> <p>7 閉 会</p>			

# 議 事 録

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、□は担当課の発言)

## 1 開 会

## 2 会長あいさつ

入谷会長のあいさつにより開会した。

## 3 情報提供

### (1) 市立児童クラブの課題や今後の取組について

放課後児童対策課から当日配布された資料に沿って説明が行われた。

<主な意見・質疑>

○支援員や補助員の仕事内容について、本日の配布資料のみでは具体的なイメージが湧きづらい。もう少し詳細な内容が分かる方が、地域の人へも紹介しやすい。

⇒□具体的な資料をご用意する。また、少しでも興味がある方がいたら、担当のこども施設課へ連絡してほしい。

※会議後、担当課より別途詳細資料の提供あり。

## 4 報告事項

### (1) 来年度のまちづくり会議開催日程（案）について

事務局から資料に基づき説明が行われた。

<主な意見・質疑>

特になし。

## 5 議 題

### (1) まちづくり会議会則の一部改正について

入谷会長から資料に沿って、本会議会則の一部改正をする旨説明が行われた。

<結果>

異議等なく、承認された。

### (2) 災害時要援護者の取組における具体的な支援案の検討について

事務局から資料に基づき説明が行われた後、3グループに分かれて支援案「①災害時の支援の範囲」及び「②平常時の取組」についてのグループワークを行い、①については、グループとしての支援案を決定し、②については「実施できそうなこと」、「難しいこと」を分類した。

<各グループの発表内容>

グループ	発表内容
A	<p>■①災害時の支援の範囲</p> <p>・グループとしての支援案：<u>①安否確認（生存確認のみ）</u></p> <p>「①安否確認（生存確認のみ）」が最も実施しやすい。マンション内なら確認できるが、その他のエリアへ移動することは難しい。また、「②安否確認＋在宅避難ができる状態かを確認」、「③安否確認＋避難所等へいくことの手助け」の支援案の実施は難しい。</p> <p>■②平常時の支援</p> <p>「③向こう三軒両隣の方とのコミュニケーション」は必要性が高く、実施しやすいという意見で一致した。「⑥要援護者が参加した防災訓練」は、必要性はあるものの名簿の収集に課題がある。</p> <p>また、その他の支援案は委員ごとに意見が異なった。</p>
B	<p>■①災害時の支援の範囲</p> <p>・グループとしての支援案：<u>①安否確認（生存確認のみ）</u></p> <p>「①安否確認（生存確認のみ）」は比較的容易で必要性が高い。</p> <p>久保原自治会の例として、毎年避難訓練において、安否確認訓練を実施しており、毎回、玄関まで歩いて来られるかを確認するようにしている。名簿も作成しており、自治会員の一部で共有している。それぞれの地域や自治会で差があると思うが、この安否確認訓練は取り組みやすいと思うので、皆さんにも実施してもらえたらと思う。実施できることから一つずつ取り組むことが大切である。</p> <p>■②平常時の支援</p> <p>「①自主防災隊による災害発生時の仕組み作り」は必要性が高く実施しやすい。</p> <p>また、「⑤民生委員が参加した防災訓練」については、民生委員が必要だと思う訓練内容を取り入れる必要がある。連合自主防災隊においても検討してほしい。</p>
C	<p>■①災害時の支援の範囲</p> <p>・グループとしての支援案：<u>①安否確認（生存確認のみ）</u></p> <p>全て必要性が高い案であるが、まずは「①安否確認（生存確認のみ）」が必要である。これは目視での確認が可能であるとともに、自分が助けにいけない時は誰かに頼むこともできる。</p> <p>また、この安否確認をするためにも運営する組織が必要なため、負担は必須となる。費用は掛かってしまうが、例えば市も協力のうえ、地区内該当者への端末配布等による安否確認システムが構築できれば、地区内の情</p>

報伝達や共有がスムーズにできる。今後検討してほしい。

■②平常時の支援

全て必要性が高いが、特に「③向こう三軒両隣の方の日頃からのコミュニケーション」が何を実施していくにしても重要である。それをすることで災害時の安否確認を近隣の方に頼むこともできる。

マンション、アパートが多い、また、外国籍の方が近所にいるなど、コミュニケーションを取るのが難しいエリアもあると思うが、ガイドラインを示すなどすれば、対応できるかと思う。

※グループワーク資料のまとめは別紙のとおり

<結果>

「①災害時の支援の範囲」は、小山地区まちづくり会議としては「安否確認（生存確認のみ）」とすることに決定した。

「②平常時の支援」については、グループワークの結果を基に、来年度の検討に向けて「実施できそうなこと」、「難しいこと」をさらに深掘りして分類する。

6 その他

(1) 来年度のまちづくり会議委員の推薦について

事務局から資料に沿って、来年度のまちづくり会議委員の推薦について説明が行われ、4月17日（金）までに推薦書を提出してほしい旨依頼された。

<主な意見・質疑>

特になし。

7 閉会

長谷川副会長のあいさつにより閉会した。

以上

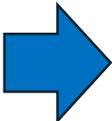
## 小山地区まちづくり会議委員出欠席名簿

令和8年2月17日開催

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	入谷 利郎	小山地区自治会連合会	会長	○
2	加治 左近	宮下自治会		○
3	徳永 三朗	すすきの自治会		○
4	亀田 浩代	すすきの向陽自治会		○
5	若井 一朗	向陽町自治会		○
6	丸山 和加恵	久保原自治会		○
7	武井 弘吉	自治会法人 氷川町自治会		欠席
8	渡辺 ゆかり	相模原駅前自治会		○
9	阿部 利和	東第一自治会		欠席
10	佐藤 薫	丸山自治会		○
11	星 清次	小山公民館	副会長	○
12	川口 久美	小山公民館		○
13	宍戸 佳子	小山公民館利用者懇談会		○
14	長谷川 澄男	小山地区社会福祉協議会	副会長	○
15	遠藤 秀雄	小山地区社会福祉協議会		○
16	小池 美恵子	小山地区民生委員児童委員協議会		欠席
17	藤原 幸恵	青少年健全育成協議会		○
18	永山 康雄	防犯指導員		欠席
19	加藤 秀子	相模原交通安全協会小山支部		欠席
20	大谷 春枝	向陽小学校PTA		○
21	中村 悠一	小山中学校PTA		○
22	中里 和男	相模原西商店街協同組合		欠席
23	松橋 真奈美	小山地域包括支援センター		○
24		学識経験者		

## 【別紙】グループワーク資料まとめ ～①災害時の支援の範囲～

### ■結果

	グループとしての支援案			
A	①安否確認（生存確認のみ）	 <table border="1"> <tr> <td>小山地区まちづくり会議としての支援</td> </tr> <tr> <td>①安否確認（生存確認のみ）</td> </tr> </table>	小山地区まちづくり会議としての支援	①安否確認（生存確認のみ）
小山地区まちづくり会議としての支援				
①安否確認（生存確認のみ）				
B	①安否確認（生存確認のみ）			
C	①安否確認（生存確認のみ）			

### ■支援案一覧

支援案	必要性・実施のしやすさ	課題
① 安否確認 （生存確認のみ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要である。</li> <li>・必要性は高、実施は易。</li> <li>・目視程度なら可能。自分が対応できなくても誰かに頼むこともできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の事情により実施が難しい場合もある。</li> <li>・災害時要援護者が家族にいる場合は難しい。</li> <li>・対応可能な範囲を名簿等で事前に把握する必要あり。</li> <li>・マンションでは難しい。</li> <li>・まずは自分の身の安全確保が優先。自分が助けに行けなくてもプロに頼むこともできる。</li> <li>・安否確認は皆ができるようにする。</li> </ul>
②安否確認+ 在宅避難ができる状態かを確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性は中、実施は難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況判断が難しい。</li> </ul>
③安否確認+ 避難所等へいくことの手助け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性は高、実施は難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力が持たない可能性あり。</li> </ul>
④支援は難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事やその日によって異なる。</li> <li>・子どもがいるので難しい。</li> </ul>	
⑤その他 （日中または夜間の支援は可能）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事やその日によって異なる。</li> <li>・夜間土日であれば支援可能。</li> </ul>	



<p>⑥要援護者が参加した防災訓練 (希望者の支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要ではあるが難。</li> <li>・必要性は高、実施は易。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿の共有等。</li> <li>・やろうと思えばできるが、その人次第。</li> </ul>
<p>⑦まちづくり会議や連合自主防災隊の会議での取組の共有や災害の研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性は高、実施は易。</li> <li>・必要。支援担当者は参加必須としたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やろうと思えばできるが、その人次第。</li> </ul>

以上